

第1回 仙台市震災復興検討会議議事録

- 日 時 平成23年7月13日(水) 9:00~11:00
- 会 場 仙台市役所2階 第一委員会室
- 出席委員 浅野弘毅委員, 阿部重樹委員, 板橋恵子委員, 今村文彦委員,
風間基樹委員, 鎌田 宏委員, 川田正興委員, 辻 一郎委員,
中井 裕委員, 堀切川一男委員, 牧原 出委員, 増田 聡委員,
宮原育子委員, 宗片恵美子委員, 渡邊浩文委員
[15名]
- 欠席委員 櫻井常矢委員 [1名]
- 仙台市 奥山恵美子仙台市長, 稲葉副市長, 伊藤副市長, 山田震災復興本部長,
事務局 小島震災復興副本部長, 寺内震災復興室長, 梅内震災復興室主幹
- 議 事
- 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 委員紹介
 - 4 議長選出及び副議長指名
 - 5 議長あいさつ
 - 6 議事
 - (1) 会議の運営について
 - (2) 会議日程について
 - (3) 仙台市震災復興計画に向けての今後の方向性について
 - (4) その他
 - 7 閉会
- 配付資料
- 1 委員名簿
 - 2 仙台市震災復興検討会議設置要綱
 - 3 仙台市震災復興検討会議の運営について(案)
 - 4 会議日程(案)
 - 5 今回の震災の被害及び「仙台市震災復興ビジョン」について
 - 6-1 仙台市震災復興検討会議委員からの主な意見(論点整理)
 - 6-2 仙台市震災復興検討会議委員からの意見(概要)
 - 6-3 仙台市震災復興検討会議委員からの意見
 - 7-1 議会からの主な意見
 - 7-2 市民からの主な意見(復興まちづくり意見交換会)

1 開会

○事務局

皆様おはようございます。朝早くから大変ありがとうございます。ただいまから第1回仙台市震災復興検討会議を開催させていただきたいと思っております。私は震災復興室長の寺内と申します。議長が決定するまでの間、進行役を務めさせていただきますので、どうぞよ

ろしくお願い申し上げます。

今、副市長の方からもお話ございましたけれども、震災で庁舎の空調設備が壊れてしまっておりますので冷房が効きません。ぜひ暑い方は上着の方をお脱ぎになっていただいて会議の方にお臨みいただければというふうに思います。次回までは直る予定でございます。

それでは、初めに資料の方の確認をさせていただきたいと思います。お座席の方に座席表の方と、それから事前にお送りした資料、資料の順番といたしましては、一番上に次第がございまして、その次に資料一覧という形で配付させていただいている資料の方がございます。もし資料の方、不足のところがありましたらお手を挙げていただければというふうに思います。よろしいでしょうか。

さらに、仙台市の総合計画、これも併せて置かせていただいております。また、時間の都合上、机の上に置かせていただきました委嘱状、これをもって委嘱の方に替えさせていただきますことをご了承いただきたいというふうに思います。

本日は15名の委員の方にご出席いただいております。定員の過半数を超えておりますので、定足数を満たしていることをご報告させていただきます。

また、会議の公開・非公開の取り扱いでございますが、後ほど議事の中でご審議いただく予定でございますけれども、本市におきましては原則公開というふうにする方針がございまして、議事で正式な決定を行うまでの間、公開という形で進めさせていただきます。ご了承くださいたいと思います。

2 市長あいさつ

○事務局

それでは、開会に当たりまして市長からごあいさつを申し上げます。

○市長

改めまして、おはようございます。このたびは大変皆様お忙しい中を私どもの震災復興検討会議の委員をお引き受けをいただきまして、まことにありがとうございます。

既にご承知のとおり、この4カ月の間、私ども、被災された皆様とご一緒に避難所の運営、また応急仮設住宅への移行、また民間賃貸住宅の借り上げ、そして大変復興に向けての大きな課題となっております瓦礫の撤去、そういったものに取り組んでまいりました。そうした一つの被災したところからのまず第一段階としての緊急的避難の状況、それは今概ねお盆のあたりをめどに着実に進めさせていただいているところでございますが、これからはやはり経済の回復、そして何よりも大勢の皆様が一番心配しておられる雇用の場の確保、仕事を失った方々がどうやってまたお仕事についてしっかりと生活を立て直していくか、その問題、そういった大きな課題が私たちの前に投げかけられているわけでございます。

また、ご承知のとおり、仙台は今回の被災地の中で唯一の100万都市であり、また政令指定都市でございます。東北地方の中で仙台でしか持っていないさまざまな都市機能というようなものもございまして、それらをいかに復旧・復興につなげ、私ども100万都市としての東北全体の復旧に資するというような役割を果たしていけるのが、観光の面での役割というものもございまして、それ以外にも例えば仙台フィルが行っておりますような

文化的な復興の催し、文化的ないろいろな支援、そういったものもあろうかと思ひますし、また、学問、研究、そういったものに対する支援というようなことも課題になろうかと思ひます。

今日は幸いにも15名の委員の先生方にご参加をいただきまして、早速にこうした仙台ならではの課題も踏まえつつ、ご議論を深めていただければと思うところでございます。この間、私ども、市民の皆様といろいろな形でお話をさせていただきました。そのときのいただいたご意見等につきましてはお手元の資料等にもまとめてございますので、それらを参考にしていただきながらご発言をいただければうれしいところでございます。

どうぞ、暑い夏でございますが、よろしくお願ひを申し上げます。

3 委員紹介

○事務局

続きまして、委員の皆様を私の方からご紹介をさせていただきたいと思ひます。名簿順にご紹介申し上げますので、資料1の委員名簿の方をご参照いただきたいと思います。

浅野弘毅委員でございます。

阿部重樹委員でございます。

板橋恵子委員でございます。

今村文彦委員でございます。

風間基樹委員でございます。

鎌田 宏委員でございます。

川田正興委員でございます。

櫻井常矢委員の方は今日御都合により欠席となっております。

辻 一郎委員でございます。

中井 裕委員でございます。

堀切川一男委員でございます。

牧原 出委員でございます。

増田 聡委員でございます。

宮原育子委員でございます。

宗片恵美子委員でございます。

渡邊浩文委員でございます。

続きまして、市側の出席者の方の紹介をさせていただきます。

稲葉副市長でございます。

伊藤副市長でございます。

山田震災復興本部長でございます。

4 議長選出及び副議長指名

○事務局

続きまして、議長の選出の方をお願いしたいというふうに思ひます。

仙台市震災復興検討会議設置要綱、こちらの第4条の方にまず議長を1名委員の互選に

より決めていただくことになっております。その後、同じ4条でございますけれども、議長は副議長を指名するという流れになっております。まず、議長の選出につきましてどなたかご推薦のある方、挙手の上ご発言をいただければというふうに思います。（「よろしいでしょうか」の声あり）

はい、お願いいたします。

○阿部委員

僭越ですけれども、鎌田委員を議長にご推薦いたしたいと思っております。よろしくお取り計らいお願いいたします。

○事務局

はい、ありがとうございます。

今、阿部委員の方から議長は鎌田委員にお願いするのがというふうなことでご発言がございました。お願いするということよろしいでしょうか。

〔異議なし〕と呼ぶ者あり〕

それでは、鎌田委員に議長をお引き受けいただきたいというふうに存じます。

鎌田委員、どうぞ議長席の方によろしくお願いいたします。

〔鎌田委員、議長席へ着席〕

それでは、鎌田委員の方には副議長の方を指名していただくこととなりますけれども、どなたをご指名なされますでしょうか。

○鎌田議長

それでは、牧原委員と宮原委員のお二方をお願いしたいと思います。

○事務局

牧原委員、宮原委員、よろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

それでは、副議長は牧原委員と宮原委員の2名、お引き受けいただきたいと思っております。どうぞ副議長の席の方にご移動の方をよろしくお願い申し上げます。

〔牧原委員、宮原委員、副議長席へ着席〕

5 議長あいさつ

○事務局

それでは、ただいま議長に選出されました鎌田委員にごあいさつをちょうだいしたいというふうに存じます。鎌田委員、お願いいたします。

○鎌田議長

それでは、改めましておはようございます。ただいま議長に選出をされました鎌田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。一言ごあいさつを申し上げたいと思っております。

初めに、このたびの東日本大震災によりお亡くなりになりました皆様のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に対しまして心からお見舞いを申し上げたいと思っております。

仙台市の一日も早い復旧・復興を進めると同時に、震災の経験を次の世代に伝えていくこと、これは私たちに課せられた重要な責務であるというふうに思っております。

新しい都市づくりに向けまして、仙台市民の英知を結集し、仙台、ひいては東北の将来を見据えた震災復興計画の策定が求められているところであります。

復興計画は今年の10月まで策定するという事になっておりますので、3カ月余りでございますが、大変短い期間ではございますけれども、スピード感を持ちながら効率的・効果的に中身の充実した議論を進めてまいりたいというふうに思っております。進行に当たりましては皆様方のご協力が不可欠となりますので、何とぞどうぞよろしくお願いしたいと思います。

委員の皆様は、医療・福祉、経済、防災、まちづくりなど、仙台のさまざまな分野の実情をよくご存じの皆様でございます。仙台の個性やポテンシャルを生かしながら、皆様の専門的な知識、経験に基づく現場感覚に富んだ具体的なご意見をぜひお願いしたいというふうに思っているところでございます。

どうぞよろしくお願いいたしまして、簡単でございますけれどもごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

副議長のお二人の方からもごあいさつの方をちょうだいしたいというふうに思います。初めに、牧原委員、お願いしたいと思います。

○牧原委員

東北大学の牧原でございます。まず最初に、このたびの震災でお亡くなりになられた方へのご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方には心よりお見舞いを申し上げます。

僭越ながら若輩ではございますけれども、このたび検討会議の副議長にご指名をということで、お受けいたしたいと思っております。

私、専門は政治学、行政学でございます。このたびのこの震災で今まで恐らく、特に戦後余りこういう大きな、特にこのレベルの大きな地震が災害が起こって、それに対して日本、基礎自治体も含めてどう考えるかということをはほとんど実は対象としてこなかったのではないかと改めて思うところでございまして、こういった100年あるいは1,000年単位の大きな節目のような出来事の中で、この基礎自治体としての仙台市のあり方をどのように見据えていけばいいんだということで、お粗末ながら何らかの尽力ができればと思っておるところでございます。

どうかよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

宮原委員、お願いいたします。

○宮原委員

宮城大学事業構想学部の宮原と申します。私も改めて今回の震災で亡くなりました方、それから多く被災されました方々に対しまして、本当にこれから新しい時代を私たちがつくっていくということで決心と、それとまた、これからの仙台がよくなるような形での祈りをしていきたいと思っております。

今日、私も副議長ということでご推薦いただきましたけれども、前回の仙台市の総合計画の審議会での副会長も仰せつかっております。前回、総合計画では新しい仙台のまち

づくりに向けて発展的なさまざまな計画を盛り込んだところですが、今回の震災の中で改めて市民の皆さんの生活や、それから地域の交流、そして東北での仙台の位置に関して、いろいろな見方が、ないしいろいろな課題が出てきた部分、それから可能性も一方が出てきた部分があるのかと思います。

今回の復興の会議ではそういった課題と、それから新しい形での部分に関して、いろいろな分野の皆さんと意見交換ができればと思います。議長さんや、それから委員の皆様の会議が円滑に進みますように補佐してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

6 議事

(1) 会議の運営について

○事務局

それでは、ただいまより本日の議事に入りたいと思います。議長、よろしくお願い申し上げます。

○鎌田議長

それでは、早速議事に入りたいと思います。

まず、議事の運営をしていくための必要事項についてお諮りしたいと思います。

まずは、会議の公開・非公開等を決めなければなりません、事務局の方から案が示されておりますので、まず事務局から説明をお願いしたいと思います。

○事務局

それでは、ご説明を申し上げます。資料3の方をご覧ください。

検討会議の運営についてということで案をお示し申し上げます。仙台市におきましては、こういった会議は原則として公開とさせていただきます。下に書いてあります個人情報に関するもの等、幾つかの例外がある場合を除きまして公開ということで、以下の場合には議長が委員の方にお諮りし非公開とすることはできることになってございます。

また、傍聴者の皆様におかれましては、会議の円滑な運営を確保するため、係員の指示等にお従い願うようお願いをしております。

また、議事録を作成してまいりますが、議事録には議長及び議長が指名した委員1名の方にご署名をお願いし、これを公開することといたしております。

以上でございます。

○鎌田議長

はい、ありがとうございました。ただいまの説明につきまして何かご質問等ございましたら、委員の先生方、お願いしたいと思います。特にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

はい、それでは、事務局から説明がありましたように、仙台市においては公開が原則となっておりますので、事務局案のとおり原則として公開とし、審議の経過の中で非公開とすべき部分が出てまいりましたら、そのつど皆様にお諮りをして決めていきたいと思いま

すが、よろしゅうございますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

はい、ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきたいと思います。また、議事録につきましても事務局案のとおりでよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

はい、ありがとうございます。それでは、本日の会議の議事録の署名につきまして、名簿順ということで浅野委員にお願いしたいと思います。浅野委員、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

それでは、どうぞよろしくお願いします。

そのほか、運営につきまして特に皆様でございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、このまま進めさせていただきたいと思います。

（2）会議日程について

今後の進め方でございます。まずは、今後の基本的な日程について決めてまいりたいと思います。事務局から全体の日程について説明を願いたいと思います。

○事務局

それでは、資料の4に基づきまして今後の日程についてご説明を申し上げます。

本日、7月13日、第1回の会議でございます。この後、8月下旬ないし9月上旬頃に中間案の策定を目指しまして、次回、第2回を8月3日15時から17時ということで開催してまいりたいと存じます。第3回におきまして中間案等のご議論をいただいた後、中間案を確定し、これにつきましてパブリックコメントを初めとしますさまざまな市民参加手続で市民のご意見を伺いながら最終案を目指して策定をしてまいります。国等の予算の成立状況等、不確定な要素はございますけれども、現在のところ10月末を目指しまして復興計画の最終案を取りまとめまいりたいと考えておるところでございます。そこに向けて、概ね月1回、ここにお示ししました日程によりまして5回程度の会議を開きたいと思っております。お忙しい先生の皆様でございますので、あらかじめ日程のスケジュールの確保をさせていただきたいと思います。ご協力の方、よろしくお願ひしたいと存じます。

以上でございます。

○鎌田議長

はい、ありがとうございます。ただいまの説明につきまして何か質問等ございますでしょうか。特にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、日程につきましては今事務局から示されたこのような日程でよろしゅうございますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

はい、それでは、このとおり決定させていただきます。

(3) 仙台市震災復興計画に向けての今後の方向性について

次に、仙台市復興ビジョンを受けた今後の方向性について協議していただきますが、その前に、まず仙台市の復興や震災復興ビジョンに関するさまざまな意見が議会あるいは市民から寄せられているとのことでございますので、事務局からまず説明していただきたいと思っております。

○事務局

それでは、ご説明を申し上げます。

今回、震災復興ビジョンの概要をまとめたスライドを資料5としてございますが、こちらにつきまちはあらかじめお目通しいただいておりますことを前提に説明を省略させていただきます。

続きまして、資料6-1でございます。

今回、あらかじめ震災復興ビジョンをお送りさせていただきました。これに対し各委員の先生からご自身の重要と考えるような点については論点あるいはご意見をいただいております。これにつきましては、資料6-3のところでご委員の先生からのご意見を一覧にしておりますが、6-1のところでもいただいたご意見を私どもの方でビジョンの構成順に並べ替えましてお示ししております。こちらを用いまして概要をご説明させていただきます。

ビジョンの復興の目標、方向性に関するご意見といたしまして、復興の最終ゴールを明確にすることが大事ではないか、あるいはわかりやすい復興計画のネーミング、市民に親しみやすいものになるようにすることが大事だといったご意見、また、目指す都市づくりの方向性を明確にすべきであるといったご意見。

次に、基本構想。先ほど宮原副議長の方からございましたけれども、3月に策定されました新しい基本構想あるいは基本計画及び都市計画マスタープランといった市の大元となる計画がございますので、こちらとの整合性あるいは役割分担、そういったことに関するご意見をいただいております。

復興に関する手法といたしまして、復興を祈念する文化施設の創設が必要ではないか、外部支援、今回多数のボランティア等の援助をいただきましたけれども、そういった方々を受け入れる窓口あるいは情報の収集、開示の強化策、土地被害が結構出ておりますので、土地被害の履歴等の情報の積極公開、長町・利府断層などを含みます被害状況の視点、医療機関の防災力強化、仙台市の財政の問題、行財政改革との整合性、仙台市復興オリジナルバッジのようなシンボルとなるようなものの製作が大事ではないかといったご意見をいただいております。

そのほかに復興ビジョン作成過程の検証、ヒアリング等の検証でありますとか、さまざまな検証が必要ではないか、仙台市が今回の震災で抱えた歴史的遺産とは何か、地勢的に仙台市の位置づけはどうなのか、他地域へのバックアップ機能あるいは国際社会の中で仙台が担うべき役割は何かといったご意見をいただいております。

ビジョンの変更に関する論点といたしまして、ビジョンでは5年といたしております計画期間について、被害の大きさに鑑み10年間がいいのではないかと、あるいはロードマッ

プ、短期、中期、長期などの設定が必要ではないか、中小企業支援にとどまらず地域企業、産業の支援として取り組むべきではないか、ゾーニングをしっかりと見直すべきではないかといったご意見をいただいております。

2ページをごらんください。

ビジョンの各分野におけます論点深化に関するご意見でございます。多くの教訓を被災地の財産とすべきである、市民主体となる復興、あるいは男性と女性がともに取り組む復興の明示、新次元を初めとします概念の明確化が必要ではないか、防災関係では企業復旧に向けた資金の課題、あるいは被災された方、復興を担う方の心の健康に関する対策が必要ではないか、生活再建、自立支援などを検証し、見直していくべきではないか、仮設住宅における地域包括ケア、超高齢化社会を迎えますテストケースとしての意味もあるので、こういったことをしっかりと取り組むべきではないか、東部地域の防災・減災、土地利用、農業の再生、東部地域の再構築、復興住宅の関係、メガソーラー等、斜面住宅地への対応といったようなご意見をいただいております。

省エネルギー・環境のところでは、瓦礫物、津波の土砂などの有効利用、防災とエネルギー供給という課題にどのように対応していくか、スマートコミュニティの課題などが挙げられてございます。

コミュニティということでは、今回国内外の人々からの多大な援助をいただいておりますので、その人とのつながりをどう維持していくか、また、ボランティア等で日頃地域参加の少なかった住民の皆様が今回いろいろな面でつながりが生まれましたので、こういった新しいコミュニティをどのように生かしていくかといったようなことをいただいております。

経済面では、文化・観光施設の早期復旧、コンベンションシティ、国際会議の積極的誘致が必要ではないかといったご意見、その他、特区構想について、あるいは震災後の福祉、雇用問題、他地域との連携など多様な論点にわたりまして意見をいただいているところでございます。

詳細につきましては6-3の方でごらんいただければと存じます。

続きまして、資料7-1でございます。ビジョン策定後、市議会の方でも東日本大震災特別委員会を作成し、あるいは第2回の定例会の方で震災復興を中心に活発な議論をいただいております。

これでいただきました主なご意見といたしましては、例えば数値目標を設けるべきではないかといったご意見、高齢者、障害者等への配慮が必要ではないか、総合相談窓口、ワンストップ窓口のようなものが必要ではないか、震災ごみ、瓦礫の撤去に関する課題、緊急雇用対策についての課題、心のケア、セーフティネットなど生活支援に関する課題や今後生活保護が増加するのではないかといったような懸念に対しどのような態勢をとるのかといったようなことが挙げられているところでございます。また、自立支援といたしまして、災害公営住宅等においてコミュニティを維持した配置が必要なのではないかといったご意見。

2ページでございますが、津波避難タワーなど、いかに安全に逃げるかといった視点が重要ではないかといったご意見、県道塩釜亘理線のかさ上げが必要ではないかといったご

意見がございます。また、そのほか建築制限を早急にかけるべきではないかといったご意見、津波シミュレーションの結果をわかりやすく示すべきではないか。東部農地について太陽光発電等に活用してはどうかといったご意見がございます。

また、農業といたしましては、高付加価値化、資本投資、農業経営のあり方などについて多くのご意見をいただいております。

丘陵地等、宅地の再建につきましては、国に対し適切な対応を積極的に求めるべきだといったご意見、今後の宅地造成の許可に当たって震災の教訓を生かした許可が必要ではないか、あるいは切り土、盛り土などの情報の提供が重要になってくるといったご意見がございます。

中小企業対策といたしまして、資金面での支援、二重債務問題、風評被害、そういった点についてご意見をいただいております。

防災先進都市のところでは、早急に地域防災計画、今回津波等に対する設定がいかだったかということも含めまして地域防災計画の見直しを急ぐべきだといったご意見、飲料水等の備蓄またはガソリン等燃料の備蓄に対するご意見、エネルギー源の多様化などを産学官連携で進めるべきであるといったご意見、広域防災拠点となる国規模での防災センターの整備あるいは震災の教訓を後世に伝え、学びの場として発信できるような防災記念館やモニュメントを整備すべきといったご意見がございます。また、4ページでございますが、津波研究センターやシンボリックな施設が必要だといったご意見もございます。

避難所に関しましては、今回避難所の運営を総括し、新たな運営マニュアルを作成すべきである、あるいは在宅避難者の問題、防災リーダーに女性を加えるべきといったご意見、災害時の情報収集、市側からの情報伝達の確保をしっかりとお願いしたいという意見、津波防災教育の充実あるいは自助、共助、家庭内備蓄といったものを市民とともに取り組むべきであるといったご意見、また学生ボランティアの位置づけを強化すべきである、災害時における民間との応援協定などを強化すべきであるといったご意見、国際会議の誘致を目指すといったご意見がございます。

省エネルギー都市、5ページでございますけれども、エコモデルタウンの推進あるいは災害に強い地下鉄等の検証、見直し。

地域におきましては、地域と行政の連携、あるいは地域における個人情報保護に対する過剰な保護の進みではなくて、地域への一定の災害弱者等に関する情報の開示も必要ではないかといったようなご提言もいただいております。

経済活力都市のところでは、農業を成長産業にするための取り組み、自然エネルギーへの取り組み、あるいはお祭りやイベント、コンベンション、destinationキャンペーンのような観光の取り組みが重要とご指摘をいただいております。

復興計画の策定に向けまして、経費、予算、寄付金をしっかり集める、災害一括交付金を国に求めるべきであるといったようなご意見をいただいております。

最後、6ページでございますけれども、特区制度の活用、あるいは原発事故に関して適切な情報の提供の必要性、女川原発に対するご意見、被災学校の教育環境整備を急ぐべきであるといったご意見、復興を世界に発信する責務を果たすべきだといったご意見などが議会の方から寄せられたところでございます。

最後に、資料7-2でございますが、ビジョンに基づきまして市長を先頭といたしまして7回の地域意見交換会を開いてございます。参加者は662名の方からご意見をいただいているところでございます。

スピード感ある復興の取り組みが必要だ、100年先を見据えた復興計画にしてほしい、高齢者、障害者に配慮してほしい。

生活再建におきましては、雇用の確保、個人負担の軽減、罹災証明等の迅速な対応、在宅の被災者への支援。

また、東部地域におきましては、地盤沈下対策、多重な防御に賛成であるといったご意見、過去の歴史上の津波に対する認識などを再度検証してほしいといったご意見、集団移転等につきまして市の方針を早急に明示してほしいというご意見。一方では、住みなれた土地で再建したいというご意見もありますし、津波の恐怖から元の場所には住みたくないといったご意見がございまして。また、集団移転をするにも資金が心配であるといったようなご意見も寄せられてございます。

2ページでございますが、集団移転に当たってこれまで築き上げてきた地域のコミュニティを大切にしたいといったご意見、農地の復旧、瓦礫撤去を急いでほしいといったご意見、農業の企業化あるいは大型の圃場の整備が必要だ、観光農園などに切り替えることも重要ではないかといったようなご意見もございまして。

丘陵地につきまして、自己資金での再建は困難であるので、その点に対する助成をお願いしたいといったご意見や宅地造成へのより厳しい基準を求めるご意見がございまして。

防災の関係。水道などのライフラインの二重化、ガソリン等の備蓄、事業者との連携、避難所である学校が被災して使えなくなるなど、こういったことを反省してほしいといったご意見、指定避難所以外の施設に対するご要望も多くいただいております。

3ページでございますけれども、市からの情報提供が非常に少なかったため、この点を早急に改善してほしいといったご意見がございまして。また、東部地域への自然エネルギーの活用、支え合いコミュニティのところでは人材バンクあるいはNPO、ボランティアの活用、東北を牽引する経済都市のところでは仙台から企業が離れないようしっかり対策をとってほしいといったご意見。また、山形を初めとする東北での地域交流、こういったものが重要ではないかといったご意見がございまして。

最後のところでございましてけれども、市民や地域の声をしっかり聞きながら反映した計画づくりをお願いしたいといったようなご意見が多く出されております。

長くなりましたが、以上でございます。

○鎌田議長

はい、どうもありがとうございました。

ただいまの事務局からの説明につきましては、何かご質問等ございますでしょうか。特にございませんですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、次に、今日初めてでございますので、各委員の皆様から仙台市の復興計画や復興に関することにつきましてご意見を賜りたいと思います。

なお、その後の議論の時間も必要でございますので、できれば1人大体3分ちよっとく

らいでお願いできればと思います。

やり方でありませけれども、名簿順に浅野委員からずっとやっていただきまして、最後に渡邊委員までお話をいただきまして、最後に牧原副議長と宮原副議長にお願いをしたいと思ひます。

それでは、浅野委員からお願いします。

○浅野委員

あらかじめメモを出させていただきましたけれども、この心の問題は表に出ない問題で、しかも震災直後というよりはこれから少しずつじわじわといろいろな問題が起きてくるんだと考えています。

今回の震災の経験でマスコミ的にはPTSDというものが、心的外傷後ストレス障害というものが大きな話題でありますけれども、私たちの立場からしますと、従来目立たなかった、あるいは従来は治療を受けておられた精神に障害を持つ方々が医療中断して、避難所や、あるいは仮設、あるいはご自宅でもそうですが、そういうところにいられなくなって私どものところに来るといふ、そういう事例の方が圧倒的に多いんです。そのPTSDの問題はこれから仮設あるいは仮設の中で孤立化が起こってくる中で多分表面化してくる問題じゃないかというふうに思っています。

今回のこの震災復興検討会議で私の役割はどうなっているかわからなかったんですけども、経済的に、あるいは産業的に復興を目指す、その基本になるのはやはりそれを担う人間ですので、その人間がやはり皆さん前向きにならないと基本的に復興は進まないと思ひますので、そういう点に関してぜひ着目をしていただきたいというのが私のお願いです。

従来も仙台市では保健所と、それから精神保健福祉総合センターがネットワークをつくって心のケアあるいは心の健康対策を進めているわけですが、この機会に新しいものをつくるというよりは、そういう既にあるシステムを強化して、日常的な活動の中で支えていくということが、やはりその地域を知った専門の職員たちがかかわっていくということが大切だというふうに私は思っています。

とりあえず最初の意見としてはそんなことを申し上げておきたいと思ひます。

○鎌田議長

ありがとうございました。では、阿部委員。

○阿部委員

私の方からこの4カ月間特に関わったボランティアの件について3点くらいお話をさせていただきますというふうに思ひます。

震災以前からボランティア、NPOを中心とした地域社会の共助には関心を持ってきたわけですが、どうも無縁社会とか言われるようにひ弱なボランティアあるいは町内会のつながり、隣近所のつながりというふうに思っていたんですけども、実は予想に反して結構遅しくボランティアとか町内会、隣近所の助け合いが働いてくれたのではないかという評価もしています。

しかし、その一方で、皆様方もご承知のように、連休、ゴールデンウィークを境にしてボランティアに参加する人数が激減してきていると。イメージとして取り上げれば、日頃

の取り組みがやはり弱かったので、体力がなくて息切れをし始めたのかなというようなイメージでとらえております。

こういうことを受けて、2番目にやや積極的な思いつきのなというところがあるんですが、思っていることが、学都仙台と言われていることです。当初1カ月あるいは1カ月半の仙台市のボランティアに参加した80%以上が学生だったというふうにデータの把握されています。学都仙台と言われる仙台でありますから、学生をもう少しボランティアに組織化というか、システム化できないんだろうかというふうに考えている。これが2点目です。

3点目なんですが、やはり事務局が論点整理でお話をしてくださった中に、高齢者のいわゆる買い物難民のお話が出てきておりました。買い物難民はどちらかというところ過疎地域に今まで多くご指摘されてきたんじゃないかと思っておりますが、実は都会の真ん中にそういった社会的弱者と言われる人々がいるということに気づかせられたという気がいたします。

防災という意味でボランティアの活用ということを考えていくということは、実は日頃の生活の豊かさをさらに確かなものにする、そのことにつながるんだということ意識しながら今回の検討会議に参加させていただければなというふうに考えています。

以上です。

○鎌田議長

板橋委員。

○板橋委員

板橋でございます。

あらかじめ出ささせていただいたものにも書いておりますけれども、やはりこのビジョンを策定するに当たって最も基本となるのが、私たちもそうですけれども、やはり宮城県沖地震を想定して全てを準備してきたというところがもうあらゆるところで想定を超えるものが起きてしまいました。私も関わるメディアの対応もそうですし、もちろん市や県、国の対応もそうだったかと思えます。

まず、一番私が大事かと思えますのは、現状の検証ではないかというふうに思っております。先ほどご紹介いただいた資料の中にも市民の皆様からのご意見のヒアリングがありましたけれども、あのわずか600数名に過ぎません。ここに参加された方々が本当に避難所で苦勞なさっている方々かどうかということも大変疑問です。

そういう意味では、今もなお避難所暮らし、あるいは在宅避難を続けていらっしゃる方々、そういう方々が発災直後から現状、現在に至るまでどういうことを問題と考えていらっしゃるか、そこをきちんと吸い上げるところが最も大事ではないかというふうに思っております。

書かせていただいた中でも災害時は公助よりも自助、共助だということを私どもも再三言ってまいりましたけれども、今回これを身をもって公助が実は当てにならないということをも市民の皆さんが感じたことはないのではないかと思えます。

もちろん公助の部分というのはなかなか手が回り切らないというのはもう先刻ご承知かとは思いますが、それでもなお、やはりこの部分は公的機関が役割を担ってし

かるべきだなという部分が役割を果たせず、結局民間ですとか個人レベルがその部分をサポートするというケースが大変多く見られました。

ということもございますので、先ほどの議会の方のご意見にもありましたけれども、そういった支援の受け入れの窓口を逆に市側が設定してしまって、公的機関で補えない部分をNPO、民間団体、個人レベルでどんどんやっていただくと。そこをただ一本化して、さみだれ式に多発的に起こっていることを市も知らずにいるということではなくて、ある程度そういうことを一本化するような窓口が必要ではないかなというふうにも感じました。

それから、現実に生活再建、自立に向けた支援等もまさいに行われている最中ですがけれども、先月の20日の段階で震災で命拾いをなさった方々がその後の避難所でのストレスあるいは持病の悪化ということで、既に68名もの方が亡くなっていて、その数は恐らく現在に至るまで増え続けているのではないかとというふうにも思いますので、本当にせつかく助かった命をむだにしない対策を、これも緊急の対策として市側ではとっていただきたいというふうに思いますし、ひょっとすると本当の意味の被災者のニーズに見合った支援ができていないのではないかと、そういうところも直ちに検証していただいて、もしそこにずれがあるのであれば時間をかけずにその齟齬や問題点は直ちに直視するという柔軟性も持っていただきたいというふうに思います。

全てにわたってやはりスピード感を持ってやるべきこと、それからじっくりと腰を据えて見据えるべきものと、幾つか二つ三つに分けて進めていただければなというふうに感じます。

それともう一つ、情報発信が市側から余りなかったというご意見が市民の中からもありましたけれども、私どもメディアもそれは非常に痛感をいたしました。今回、電話も使えない状況で、我々が市からの情報を受け取るためにとれた手段というのは、まさに人力で人を災害対策本部に出向かせてメモをとって、あのときはもう雪も降っておりましたので自転車もしくは徒歩で会社に戻ってそれを伝えるというような形をとっていたんですけれども、もう少しそういった手段が使えない状況になることを想定して市側からどういうふうにメディアが情報を受けていち早く市民に発することができるのか、その情報の収集の仕方もそうですし、伝達の仕方ももう一工夫二工夫していただければなというふうに感じております。

以上です。長くなりました。すみません。

○鎌田議長

では、今村委員、お願いします。

○今村委員

私からは減災先進都市仙台を目指してということで一言述べさせていただきたいと思っております。

まず、今回の地震がマグニチュード9、また40メートルを超える津波ということで、まず事前の評価が十分じゃなかった、評価を携わらせていただいている一人として大いに反省しております。その反省を含めまして、今回のような巨大地震津波がなぜ起こったのか、メカニズムをしっかりと解明しなければいけないと思っております。特に我が国におき

ましては他地域でもこのような巨大災害が起きる可能性がございます。それに対する予防という意味でも、今回のこの経験、またさまざまな教訓を発信しなければいけないと思っています。

その一つが、二つの2段階の考え方であると。津波に関しましても減災を中心とした災害というものに対応すること、または施設を十分生かした防災をやること。残念ながら今回の大震災は減災でございます。その減災の考えをこの仙台の地においていかに明確化し、それを発信するのか、これに関してぜひ支援をさせていただきたいと思っております。

一つのキーワードとしましては先進的な技術、科学を導入するだけではなくて、歴史的な観点を持った文化をつくるということかと思っております。この地におきまして既にいぐねであるとか、さまざまな防災に関する地名であるとか、または伊達政宗が作りしました防災林、従来は防潮林といっておりましたが、現在は防災林と呼んでいます。そのような過去、祖先が残したものがございます。それを再検討して我々はそれを新しくこの震災をきっかけに展開する必要があるかなと思っております。

最後、本日はちょっとお時間がないわけですので、2点だけ重点化させていただきたいものがございます。一つは防災教育でございます。それは人材育成という面と、あとは啓発という面がございます。もう1点は、復興過程の把握ということでございまして、従来は仮設住宅を何棟つくった、またはどれだけの生活収入が増えたという数字で表される、または物理的な側面が多かったんですけども、やはり神戸、また中越の経験を受けまして復興感と言われている心理学的な満足度といえますか、それらもきちんと調べていただき、各家庭でどこまで達したのか、こういう状況を見ていく必要があると思っております。

以上でございます。

○鎌田議長

それでは、風間委員、お願いします。

○風間委員

東北大の風間と申します。地盤工学を専門にしております。既にあらかじめ出させていただいたレジュメについてコメントさせていただきたいと思っております。

私はこの仙台市の震災復興ビジョンを読ませていただいたときに、項目はたくさん列挙されていますが、まず時間のスケールがないということを感じました。緊急に取り組むべきものと復旧・復興のフェーズで取り組むべきものと長く継続的に取り組むべきものの仕分けがされていないと感じました。

長く継続的に取り組むべきものという意味は、今回の震災でもわかったと思いますが、事前に準備してあったことについては威力を発揮して防災に役立つと思います。しかし、普段からやっていないことを急にやろうと思ってもできないということを皆さん痛感したと思います。ですから、防災という視点は発災してからやるのではなくて、常日頃のやることがまさに防災に対することであって、それをもう強く認識していただくということで、長く継続的に取り組むべきものの視点の中にそういう視点を入れていただきたいと思います。

2番の件についてです。現在瓦礫とか津波の堆積物がたくさん残っておりますけれども、こういうものを現行の例えば廃棄物行政の枠組みでやろうとするとどうしてもできない

部分があります。ですから、そこは日常時と違う特別な現場に即した条件に合わせた行政的な枠組みをぜひつくっていただいて、スピード感を持ってそれに対応できるようなことを国に対しても要求していただければと思います。

3番目の造成団地の問題は、個人的に関わっていますが、なかなか私有財産なものですから行政が関与できない部分もあります。これについては、すぐに対応できない部分が非常に多いと感じています。制度の欠陥については、やはり10年とか20年先を見据えて順番に弱い宅地地盤をつくり替えていくという視点での対応も必要かと思っています。

4番目については、宮城県沖地震に対応して、防災対策をやっていたわけですが、私もそれについて一部関わっていたのですが、今すぐというわけではないですが、どこかの時点で宮城県沖地震の視点でやっていた防災対策が今回どういうふうに関わったのか、だめだったのならどこがだめだったのかを一度総括する必要があると思います。

それから、最後の枠外に書いたのは、脅かすわけではありませんが、今回のこれまた巨大地震を契機に内陸の活断層、長町・利府断層が動くというような危険性も指摘されているので、防災のまちづくりという意味ではそちらの方も頭の片隅に置きながらぜひやっていただきたいと思っています。

以上です。

○鎌田議長

お願いします。

○川田委員

みやぎ工業会の川田です。よろしくお願いします。

私事からで恐縮なんですけど、実は3月10日に県庁で会議がありまして、その日食事をさせていただいて夜遅く私のすみか、関東に戻った翌日が大地震だったわけですけども、それを私もみやぎ工業会の会長を引き受けている責任上、何とか被災地に戻らなければということで、実は恥ずかしながら交通手段も何もありませんので、ボランティアだったらと私持っているものを担いで横浜のボランティア団体、大きいところですけども、そこに手配に行ったんです。そうしますと、物すごい数の手を挙げたボランティアが志望しまして、私は資格なしではねられた。それで、要するに年が70歳であなたは無理ですよ、持ってきたものだけ置いて行きなさいと。それほどこの大震災についてはご承知のとおり世界各国からもものすごい手が挙がりました。

私も立場上いろいろなところからご提案いただいたんですが、実は3日後に中国のある大手住宅機器メーカーからバスユニットとか、いろいろな調理機器を送ると、だから必要としている者に使ってもらえないかということで、当地のあるトップのところにご相談に行ってもらったんです。工業会の人物を通じて。そうすると、なかなかそれを受け入れる態勢にない。

今申し上げたいのは、実は物すごく支援をしようとする方と、それから困っている現地の被災者、被災地を、これもまたたくさんあると。ところが、そこがうまくつながらないというのが最大の問題だと思います。

実はいろいろな支援の手がある中で、実は奥山市長にお礼を申し上げたいんですが、先般、横浜の林市長が名誉会長を務める横浜の工業会連合会、会員が2,000社あるんだ

そうですけれども、僕が聞いたところでですけども、そこが手伝いましょうと。奥山市長がみやぎ工業会を紹介するからそこと相談し合ってくれということで、これは大物両市長の強い絆があつての紹介ですから、これは実現するなど。

ということで、私も早速みやぎ工業会の幹部にまず連絡をやって、お互いが何ができるかということからスタートするように指示したところで、来週双方の幹部が集まってここで会議をやるんですけども、申し上げたいのは、その横浜市工業会連合会の幹部の方が言われるのは、昨日もみやぎ工業会の事務長に連絡あったらしいですけども、この被災地、被災企業の危機はこれは被災地の問題じゃないですよと、これは日本の危機、日本のものづくり、製造業の危機であつて、この被災地の企業が立ち上げてくれなければ横浜の工業会2,000社も非常に危ないと思っていますと。だから、これは被災地企業を支援するということがなくて我々自身の危機であり、共通の危機である、共通の目的のために私どももやれることをやりますと、決して被災地企業が弱っているからといって被災地企業のお客さんを横取りするなんてとんでもないようなことをこれほども考えてはいませんよというようなご提案をいただいて、これはひとついろいろなところから提案いただいている中で、この熱い、そしてしかも市長同士の強い絆でバックアップされたらこの事業を成功させてやろう、成功事例をつくらうということは今スタートさせたところでございます。

こともさようにしゃべり出したら私も長いものでやめておきますけれども、大事なことはやはり今言ったようにやる気のある、支援する側もされる側も多くのを欲しがらる。従つて、それをつないでいくためにはどうしてもやれる人が自らやると、行政に頼り切りじゃなくて、民間も市民もやれることはやるという、そしてまた、やれる場、プラットフォームです。こういうものをつくっていく。

例えば地元企業でいえばみやぎ工業会がくれば、事務局が承諾すればいろいろな困っている問題、そして横浜工業会が提供してくれる、このことについてつなぐ方法がみやぎ工業会に来ればあるよと。そういうプラットフォームをみやぎ工業会がつくると。貧乏なみやぎ工業会ですから工業会でやれることは知れているんです。そういうことの輪が広がっていて、そして全員がそれぞれの役割を分担してやる中で早い立ち上がりができるんじゃないかならうかと。

もちろんビジョンとか、そういう方向性なんていうものはやはり行政の方ではないといけない。我々は明日あさつての生きるための手だてを講じなければいけないというふうに思っています。

以上です。

○鎌田議長

はい、ありがとうございました。それでは、こちらの辻委員から。

○辻委員

東北大学の辻です。

この資料のとおりなんですけれども、3点書かせていただきました。そのうちの二つ目、三つ目についてお話をしたいと思うんですが、現在仮設住宅ということでもう既に昨日おとといの報道によりますと孤独死の方がいたということが報道されてはいたけれども、

これをこの孤独死をどう防ぐかというのが非常に重要な問題なんです、それはもちろんのこととして、さらに一步踏み出してこの地域包括ケアというものを考えていきたいと。そして、これは20年後の日本の超高齢社会を先取りしたものでありますので、その一つのモデルをこの仙台から出していただければなと思います。

具体的に考えますと、この仮設で暮らす方、これからひとり暮らしのお年寄りが非常に多々ございますので、これからやはり20年後の日本も考えたときそういう状況でありますので、そこで考えなくてはいけないのは、ひとり暮らしの高齢者が安心して人生の最後を迎えることができる。そのために、ひとり暮らしでありながらも近くの場所で一緒にだれかとご飯を食べたり、一緒にだれかと介護をし合ったり、そういった中で一つの家庭、ファミリーが拡大された形、言ってしまうとグループホームあるいはエクステンデッドファミリーと呼びますけれども、そういった家庭の枠を越えたような人と人とのつながりというものを今度の仮設の中からつくっていただければなというふうに考えています。

今回、仮設のことが重視されていますけれども、それ以外に民間のアパートに入った方あるいは自宅にいても不便な生活をしている方もいらっしゃいますので、そういった方々を含めまして包括的に市としてケアをしていただきたい。そのためにいろいろな関係者が集まりまして、その実態を把握して、そしてケアのあり方を住民主導の形で立案して、そして、市がサービスを提供するんじゃなくて、自助、ここでのバランスのとれた形で包括的なケアを展開して、そしてそれを強化していく。そのプランについてですけども、そういったサイクルをきっちりと出していけるような、そういったものをつくっていただければなというふうに思います。

それから、3番目のこのコンベンションシティなんですけれども、先ほど冒頭のごあいさつで市長がおっしゃいましたけれども、東北で唯一の100万人都市である仙台、その特有のものは何かということなんです、たくさんあると思うんですが、その一つがやはりコンベンション機能というものです。

今回、委員が16名いますけれども、そのうちの11名が仙台市内の大学の教授でございますので、そうして考えますとやはり学都仙台というものは今もあるわけです。そういった形で学会等を初めとするコンベンション機能が大きく求められているんですが、これ歴史的に考えると仙台のコンベンション機能は低下しています。地盤沈下しています。

今、仙台でうちの我々の学会をするときにがっかりしますのは国際センターです。それはどうしてかという、一番大きな大ホールの中なんですけれども、あれができてから15年たちますけれども、それ以降仙台市内では大きな会議場はできていません。

その一方で、例えば横浜ではパシフィコができたり、あるいは札幌でも大きな会議場ができてたり、あるいは新潟でもときメッセができてたり、そういった大規模なコンベンションホールができていく中で、今何が起きているかといいますと、東北大学の教授が全国的な大きな学会、5,000人あるいは8,000人、1万人規模の大きな学会なんです、その学会場が非常に迷惑なんです、その学会を仙台で開催できないという事態が今起こっております。やむを得ずパシフィコ横浜でやったり、あるいは国際フォーラムでやったり、あるいはお台場でやったり、そういった形で仙台の東北大学の教授が学会を仙台で開催することなく東京あるいは横浜で開催するという事態が今あるわけです。

その中で、この仙台におけるコンベンション機能が低下すると、その結果何が起こったかということ、今般の大きな伝統あるホテルが相次いで閉鎖されましたが、やはりそれは集客能力がなくなってきている部分があるんです。

ですから、これを一つ今回の震災をきっかけといたしまして、やはりコンベンションシティ仙台を再興していただきたいということが私の提案であります。

以上です。

○中井委員

東北大学農学研究科の中井です。

農学研究科は震災後すぐに「食・農・村の復興支援プロジェクト」という事業を立ち上げまして、農学研究科の50人以上の教員が動いております。したがって、震災復興は、農業を中心に考えてきたわけです。とくに東部地域は何回か訪れておりまして、この土地を具体的に復興させるためのプロジェクトとを一つ始めております。

仙台の中心地にいると多くの方は、農業のことをあまり考えないと思いますが、やはり仙台にとって農業というのは非常に重要ですし、仙台らしい食や農が必要あると考えております。

特に東部地域を見ますと、人が住み、美しい農村があったわけです。かつては、訪れた人々がその地を心のふるさとと感じ、農業の存在価値、安全・安心な食料を考えることができた場所だったわけです。復興に際しては復旧ではなくて、ここで新しい仙台市らしい仙台市民が求める食と農を考えた農村づくりというものをぜひやっていただきたいというふうに考えております。

基本的には安全・安心なまちづくりが重要なわけですが、そのときに単なる新興住宅地を作るのではなくて、やはり東北の農村らしさというものをもちた村を復興していただきたいと考えております。

今、多くの仙台市民が考えているのは、有機資源循環を生かした有機農法などの、安全な食料生産だと思います。まちづくりに加えて、農業生産を支える支援が重要だと思います。

さらに、食料生産に加え、この場所でエネルギーをつくれないうということも考えています。例えば大崎市の例ですがバイオディーゼルをつくっている工場がありまして、そこで備蓄したディーゼルオイルが非常に今回の震災後、非常に役に立ったということでして、地域の自立型のエネルギー生産であるとかエネルギー備蓄というものを考えた地域づくりも重要です。菜種生産など、農業を介した地域自立型のエネルギー生産も視野に入れておく必要があります。

食料とエネルギーを生産する美しい田畑に仙台市民が訪れて、そこで喜びを感じられるといったような地域づくりが理想だと思います。

この地域すべてで農業を復興させることは無理だと思います。とくに、沿岸に近い部分などはフィールド系のスポーツやレクリエーションに特化したコースや施設を完備した、海岸公園を整備していただきたいと考えております。

以上です。

○鎌田議長

堀切川委員、お願いします。

○堀切川委員

東北大学の工学研究科の堀切川といいます。ただ、自分の専門はほとんどここには生かせそうにないんですけれども、地元の産業支援、地域企業支援でいろいろな製品開発を今までやってきていましたので、多分そういう観点からの意見を求められているのかなというふうに思っております。

最初に申し上げたいのは、この仙台市の震災復興検討会議の委員の皆さんがほとんどが全員仙台市民で、あるいは元仙台市民の方々に構成されている理由というのが非常にいいということを少し強調したいと思っております。どことは言いませんが、そういう人がほとんど入っていない、全国、東日本いっぱいあるわけではありますが、やはり被災者である自分たちの立場で委員になっているというのが実際の被災状況の実情とニーズを細やかな形で皆さんご意見を出されるんだろうと思うので、ぜひ仙台市の復興計画というのは全国的にも注目されているのではないかなと思っておりますので、いい案ができることを期待しているところです。

配付資料にありますように、大小細かく八つぐらい意見を出させておりますが、一つ目なんですけれども、復興した先に逆に希望の光が見えないとなかなか官民一体となって走っていけないと思っておりますので、復興後のゴールの姿というか、こういうまちにするんだというゴール設定を明確にされた方がいいというふうに思っております。

ない知恵を絞って考えたものが少なくとも皆さん賛成されると思うのは、震災前よりいい街にする、もうそれでないと心が折れそうになりますので、震災前よりよくするというのは少なくともゴールのキーワードに欲しいと個人的に思っております。

もう一つはついでで、私の考えですが、世界一住みたい都市になりたいと。日本の中で10番以内とって喜んでいるようじゃだめだと言っておりますので、そこを言いたいと思います。特にこの大震災は戦後でいうと100万都市を含める広域でこれだけ大きい災害というのは地球規模で戦後初めてだろうと思っておりますので、地球規模で初めて被災をした100万都市がどういう姿になるかというのは世界が注目しているだろうと個人的には思っておりますので、当然ゴールは世界一住みたい都市仙台を目指すということで、笑顔で明るく復興計画を練りたいと思っております。まじめになると下を向いて暗くなるので、明るくいきたいと思っております。

もう一つなんです、市の復興ビジョンでは5年でやると、多分スピード感を持って5年で復興の姿をつくり上げるという強い意思表示だろうと思っておりますけれども、実際の話としてはやはり10年スパンで考えた方がいいのではないかなと思っております。そこはご議論いただければと思います。

それに関連してですが、先ほど風間委員もおっしゃっていたんですけれども、時間軸を書いた方がいいと私も思うので、復旧期が2、3年、復興期で5年、そういう意味では復興5年というのは悪くないと思うんですけれども、元よりよくする、飛躍するというのを明確に設定するんであればやはり10年スパンでしっかりした計画を立てられた方がいいのではないかなというふうに思っています。

あと、一見細かいところですが、心理学的に極めて重要だと勝手に思っているんですけ

れども、この復興計画にはふさわしい名前をぜひつけていただきたいと。復興計画の案が全貌が見えてきてから、10月に入ってからでもよろしいんですが、やはり市民全員がわかる言葉あるいは国民全員がわかる言葉で復興計画のネーミングを練った方がいいと思っております。

個人的にない知恵を絞って浮かんだのが、世界一住みたい都市ドリームシティ仙台の創造計画と長いので、英語にしたら合うのがないのでドリームシティ仙台プロジェクトになってしまいましたが、何かそういうように明確にいいところにいくんだと、次の世代に渡すときにいいものにするんだというネーミングが欲しいと思っております。

さらに細かいことですが、心理学的に重要なんですが、そういう意味で仙台市の復興のオリジナルのバッジをぜひつくっていただきたいと。復興に携わる人はもちろんなんですけれども、仙台市の復興を応援する人たちもそういうバッジをつけて心を10年間一つにいくぞというためには、私はやはりそれが欲しいなと思います。有料でも皆さん買われるだろうと思っておりますので、復興委員の人でも有料でそれを買うということが重要だと思っております。

あと、ビジョンでは地元中小企業支援という切り口で幾つか書かれているんですが、被災したのは地元中小企業だけではないので、大企業の営業所・支店も含めて皆さんが被災して困っておられます。そういう意味では地域の企業、地域産業支援という大きなくりで、その中の支援の項目を挙げていていただきたいというふうに思っています。

さらにですが、その地域企業、地域産業支援の支援項目、ビジョンに書かれているのが四つ書かれているんですけれども、もうちょっと支援の目的ごとに整理されて足りないところをどんどん増やしていただきたいというふうに思っています。細かくはもう資料に書いたとおりでございますが、例えばですが、地域商品・製品の販路拡大の支援でいいますと、今全国の被災していない自治体さんが仙台市さんを応援したいといろいろなアプローチに来ておられます。これを利用しない手はないということで、応援したいんだったら買えと、買うところをつくれというところの支援が一番いいので、全国の自治体さんにもお願いして地元の製品の販路拡大の支援をぜひ盛り込んでいただきたいというふうに思っております。

ちなみにですが、ここで仙台市を褒めるわけではありませんが、3・11の後、1週間後、3月18日には仙台市産業振興事業団と仙台市商工会議所さんが合同でアエルに相談窓口をつくられました。地元産業界のあらゆる相談を受け付けますよというものを1週間後に立ち上げて、そこに後からいろいろな団体さん、東北電力、国レベルの団体さんが入られて、1カ月余りで1,000件以上のご相談を受け付けられたんです。これは仙台市の会社だけではなくて、宮城県、広くどんなどころからでも受け付けるということで、やはりこのスピード感があったということが余り全国に報道されていないのが個人的には非常に寂しいと思っております。ぜひぜひ仙台市は広くどんな人の相談も1週間後から受け付けていたんだということもぜひアピールしてもらえばありがたいというふうに思っております。

ちなみに、地域連携フェローとして私はまた7月から仲間5人とまた地元産業界支援を始めさせていただいていますが、我々の活動もこの復興に合わせて新しいミッションを幾

つか入れておりました、震災復興駆け込み寺という活動を始めました。これは地元産業界のあらゆる相談の窓口として受け付ける、対応できるものでないものも多いですけれども、そういうときは対応できる場所に絶対紹介するという形で、実は被災している企業さんあるいは産業界というのはその地域と企業と、それから時間によって相談事ニーズが変わってまいります。そういうものにフレキシブルに対応できるような対応の事業を立てないと恐らく難しいのではないかなと、復興を早くできないと思っておりますので、その辺もお願いしたいというふうに思っております。

それに関連してですが、5年になるか10年になるかは別として、復興に頑張るためにはいろいろな人の相談事を受ける人が必要だと思っております、細かい話ですが特認の方がおられたら仙台市震災復興アドバイザーみたいな制度を導入して、活躍できる人にそういうお願いをしてはどうかと思っております。復旧のためにボランティアの人たち、たくさん全国からも、うちの学生も行ったんですけれども、そういうものに併せて今度は復興のためには専門的な知識とか必要になるので、そういう人たちをぜひ任命していただければと思います。

また、今回のこの委員の皆様、大学の先生方が非常に多くて、産業界の方がもっと入るとさらにうれしいなと思っておりますが、地域のこういう学術研究機関とか、そういうところが地域企業さんで被災して困っているのであれば震災復興研究員のような形で地元の技術者、開発者を受け入れて内部の設備を全部使ってもらおうと、そういうようなことを市から強く要請してやっていただいてもいいのではないかなというふうに思っております。

ちらっと細かいんですが、また心理学的に結構重要だと思っておりますが、仙台から世間に出される商品には、食べ物とかお土産だけじゃなくて、工業製品もいっぱいあります。そういうものの風評被害との闘いもあるんですが、仙台市は復興で頑張っていますよというシールか何かをつくって、出荷するときは常にそれを張るという形で、届いた先にああ頑張っているなという、仙台市の頑張っているなというのがわかるようなシールをつけて導入されてはいかがかなとちょっと思ったりしております。

括弧付きでちらっと書いておりますが、仙台市長さんのにこっという奥山市長が笑顔の似顔絵付きシールだとさらに効果が高いというふうに個人的に思っているところであります。

あと最後ですが、仙台市さん、最後に目指す都市づくりを四つの切り口で掲げておられるんですが、一見ばらばらに見えるので、それをまた統合する一つの、先ほども申し上げましたが、5年後、10年後のゴールの姿、こういう都市を目指すんだというキーワードを一つ用意して、その中で幾つかの切り口に分けられていればいいなと思っております。私はあくまでも世界一住みたい都市仙台を目指すと、その中で防災先進都市とか、いろいろなものが来ればいいんですけれども、先ほどもご意見ありましたが、学都仙台がその中にすっかり見えていないのがちょっと寂しいので、例えば学都仙台であれば国際学術都市を目指すとか、そういうところを一つ入れていただくとか、杜の都仙台も余り見えていないので、自然と文明文化の融合する国際都市を目指すとか、そういう切り口も加えていただけるとありがたいというふうに思っております。

ついでなんでもう1個だけです。5年になるか10年になるかは別として、こういう復

復興支援事業というのは息の長い仕事で、復興支援事業自体の自己評価、自己点検をしていかなければいけないと思います。最低でも1年ごとに目標のここまで行って、状況が変わったんでこれをこう変えたいとかという、そうやってフレキシブルにやっていく必要があるんで、ぜひぜひ自己評価システムをそこにに入れていただきたいというふうに思います。

以上、3分プラスアルファで自分の意見を披露させていただきました。どうもありがとうございました。

○鎌田議長

では、お願いします。

○増田委員

東北大の増田です。3点お話をしたいと思います。

第1点は、震災の後、特に医療福祉系の公共サービスを中心とする状況が現在本当にどうなっているのかということを知りたいと思います。恐らく流されてしまった老人福祉施設や宅老所のようなものを含めてですけれども、明らかにある一部の地域では十分な公共サービスが提供されていないというのが考えられるんですけれども、青葉区の街の中になるとそういう視点が余り見えないので、ぜひ先ほどボランティアをどこに派遣すべきかという議論もありましたが、早急にそういう緊急対応が必要な地域のピックアップをやっていただきたいという緊急対応の問題です。

第2点目は、これは仙台市の震災復興検討会議ではあるんですけれども、仙台湾から県南の地域も含めて少しこの震災復興検討会議の検討と同時に地域連携、もう少し広域の総合調整を図るようなところをぜひ仙台市が音頭をとっていただいて、余り県が動いていないようにも見えるので、隣接市町村、当時の仙塩広域都市計画を共同にするような地域でそういうテーマをなるべく早目に立ち上げてほしいというような広域連携についてお願いします。

もう1点、知恵を出すやつと言った防災大臣もおりましたが、特区の提案も含めて100万都市仙台で都市の中心機能は幸いにして残っておりますので、仙台から知恵が出ないとほかの都市が出しようがないというところもあります。ですので、ぜひこれを機会に何かをやりたいというのはマイナスイメージも多分多々ある部分があるんですけれども、積み残されていた課題等について新しいアイデアを立ち上げるようなプロジェクトチームをこの震災復興検討会議と同時に具体的なテーマを幾つか絞って立ち上げてほしいというふうに思います。

それに関係して、IBMとの連携をとるという新聞報道等もありましたが、同じように民間提案が企業からもさまざまなNPOからもたくさん出ていて、それを吸い上げていないとさっき川田委員からお話ありましたが、日々の業務に追われているそれぞれのセクションにいたるとなかなかその提案がいいのか悪いのか、本当はやりたいたけれども、でもそういうことをやっているマンパワーがないとか、いろいろなこともあってちょっと時期を逃してしまうというようなことも実際にあるんじゃないかと、こういうふうに思います。ぜひこれについてもこういう提案があるということを表に出していただいて、それを今後検討する、さきほどのアドバイザーではありませんが、人材は仙台市の中もしくは仙台市周辺の大学も含めた色々な組織の中にいると思うので、握りつぶさないで投げかけてほし

いということです。

あともう一つは、地域防災計画の見直しというものが大きな課題としてあるんですけども、一つは行政として公助としてやらなければいけないという部分を持っていただいてもできなかったことはもう抱え込まないというのが一つの行き方かもしれません。つまり民間活力で使えるべきものについてはそういう方向をより大きく考えるということと、本当はやりたいたいけれどもできなかった、本当にやらなければいけなかったものについてはもっと積極的に市がマンパワーを割り振ると、そういう地域防災計画に変える。もしかしたらもう地域防災計画という名前は余り適当でないのかもしれないので、多分待っているうちに国の防災体制自体が変わっていくかもしれませんが、そのようなこともある程度落ち着いた段階では吟味しないといけないというふうに思いました。

以上です。

○宗片委員

特定非営利活動法人イコールネット仙台の代表をしております宗片と申します。唯一NPOを入れていただいたということで大変感謝をしております。実際に避難所であるとか仮設住宅であるとか、そういったところで現場で活動し、支援をしている人たちの多くがボランティアであったりNPOが大変多くございますので、そういう意味ではそういった方々の声をぜひここに届けることができたらというふうに思っております。

私どもは女性の視点で防災、災害復興を考えるということに取り組んでまいりまして、今地震の支援をしております。これは女性といいますと男性はという形もあるかもしれませんが、女性の今の状況を見ますと、その背後には子育てがあったり高齢者の介護の問題があったり雇用の問題があったり、さまざまな今地域が抱えている課題というものが女性の状況を見て見えてまいります。

そういう意味では、支援のあり方というものをやはり考えていく大変具体的なさまざまな問題というものをここで集約できるのではないかとというふうに思ひまして、私どもはこの仙台市内だけではなく、周辺の被災地となった市町村も含めて避難所や仮設住宅に入らせていただいて、女性ではあります支援をしております。そうしますと、やはり現場から見えてくるものというのは私どもの想像を超えるものがたくさんございます。そういう意味では、大変具体的なこれから取り組みが必要だということを実感をしているわけです。

今回、この復興のビジョンを見せていただいて、やはり主役は市民であるということをもう少し強調していただきたいということです。確かに行政が支援をしなければいけないというものは山積しておりますが、しかし、それを受け止め、そしてそれを自分たちの手で運用していくのは市民であるという方向性をぜひもっと強く打ち出していきたいということがあります。

今回は地域ということが非常に大きなキーワードになっているのではないかと思います。仙台市の場合も被災の多かった沿岸部、それからそうでもない中心部ということで、これだけ大きく状況が違うわけですので、やはり一律の防災計画では解決がなかなか難しいわけですので、それぞれの地域に合った防災の取り組みということが必要になるという意味では、今お隣にいらっしゃる増田先生が委員長でいらっしゃいましたが、仙台市の消防局で地域防災リーダー養成プログラムというものを検討し、この8月からリーダーを養

成しようという取り組みを始めていたばかりなんです、この3月11日の震災に伴ってこれがちょっと停滞といいますか、ストップをしてしまったという大変残念なことがあります、こういった形で人材を養成していく、育成をしていくということが大変大事ではないかというふうに思います。

そして、数々の避難所を見せていただいて、やはり女性だけではなくですが、子供たちもお年寄りも障害を持った方も皆さんそうなんです、避難所の中では大変いろいろな困難を抱えています。これはやはりこういったことを総括して、やはり仙台モデルというふうに復興ビジョンの中にありましたので、そういった仙台モデルの避難所といったものを今後ほかの地域に向けて、私たち自身の地域に向けてもやはり提言という形でまとめていく必要があるのではないかというふうに思っております。

そしてまた、先ほど増田委員もおっしゃいましたが、仙台市の周辺を見ておられますと仙台市とはまた比べものにならないほどの大変な状況を抱えている被災地の市町村はたくさんございます。そういうところとどう連携をし、協力をし、そして今回被災をした地域が互いに復興に向けていけるのかということ、やはりそういった取り組みも必要ではないかというふうに思っております、今私どもは仮設住宅の中で、避難所から次の段階に向けて、自立に向けてどういった支援が必要だろうかということを考えておまして、仮設住宅の中でサロン活動などを行っております。

そうしますと、やはり今抱えている問題というものが現場の問題が数々出てまいります。仕事が見つからない、それから子供もいて仕事に行けない、お年寄りを置いて行けない、お年寄りが孤立をしている、障害を持った方がなかなか施設に入れない、そういったさまざまな具体的な問題が出ております。そういったところにも目を向け、そしてどういった支援が必要であり、そして市民がそれらに向けてどういう役割を担えるのかということも含めて、ぜひ市民自身を巻き込んだ形の復興計画というものがこれから進めていければいいんではないかなというふうに思っております。

以上です。

○鎌田議長

では、渡邊委員さん。

○渡邊委員

東北工業大学建築学科の渡邊です。私は事前にとということで、私の場合は意見書といってもメモ書き程度のものですが、提出いたしましたので、資料6-3の最後のページになりますが、それに基づいてご説明します。

私は専門は都市環境というように位置づけておまして、例えば気候風土に配慮した都市のあり方ですとか、エネルギーを初めとするライフラインのあり方みたいなものを建築というところから追求するというようなことをやっております。

そういった立場からさまざまな復興の提言を拝見すると、いわゆる再生可能エネルギーを入れさえすれば何かバラ色の世界だみたいな、そういうような論調をよく見ますが、何か違和感を感じると。確かにこれからそういうものをどんどん導入していかなければいけないのは間違いないんだろうけれども、何か変だなということで、今回この仙台市の震災復興検討会議にご指名いただいたということに僕自身ちょっと考えてみた

というのがこのメモです。ですので、ちょっとまだ未完成な部分もありますけれども、特に真ん中あたりに大きく五つ項目立てしているのが次の震災への備え、それから基本計画との整合性、復興市街地と沿岸部、既存市街地、それから市域への展開ということです。

これは整理してしまっていますが、もともとの思考の過程でいうと、まず何を考えなければいけないのかということで復興市街地、特に復興住宅というところから考えてみました。どういう住宅がこれから必要なのかというようなことで、太陽光発電ですとか太陽熱利用なんていう話もあろうかと思いますが、こういったお話もちろんあり得ると。

ただ、これは復興住宅なり復興住宅地の自立性能のためにこういうものを導入していくですとか高効率な機器を入れて最適整備をするですとか、そもそも建物の性能をよいものにすると。高断熱高気密ですとか、地域の気候配慮というふうなことを考えてあげるべきだろうと。

さらにそれが集まって復興市街地というようなことになったときに、その規模にもよるんですけれども、例えばその規模が少し大きめに考えて小学校区ぐらいの規模にもしなるんだとすれば、それなりの公共施設の再整備というものも必要になってくるだろうし、仮にその規模がそうじゃなかったとしても、実は話題で出ておりましたように緊急時の避難施設というものも出てくるだろうと。さらにはそういった施設が備えるべき機能ですとか設備ですとか備蓄の内容といったものもあり得るだろうと。また、メガソーラーなんていうことも出ておりましたけれども、これは議論の余地が大いにあるところで、例えば先ほどどなたかの意見、市民の意見だったか議会の意見だったかもしれませんけれども、東北地域にメガソーラーをとというふうなことがありましたけれども、あれは少なからず地面を太陽光パネルで覆ってしまうということになるので、ではその土地はもう発電所にしてしまうのかというような話になってしまうんです。なので、議論が必要じゃないかということです。

どうしても沿岸部をイメージしがちなんですが、先ほど来話題に出ているように斜面の住宅地ですとか、あと河川周辺のいわゆる軟弱地盤の土地でもそれなりの、それなりのというか、相当の被害が出ているということも間違いないと。

もう一つ気になったのは、新次元というビジョンにある言葉でして、先ほど来話に出ていましたが、新たな見方で新たなことを始めていこうということであるならば、震災復興ということで被害を受けた地域なり方々を復興支援していくということが本意だとしても、この発想を市域全体に広げていくというような議論がきっとあっていいんだろうというふうなことを考えまして新規への展開というような頭出しをしたと。

ここでは先ほど増田委員からありましたけれども、防災計画というものを検証しなくてはいけないんじゃないかというふうなこともありますし、あと、この段階になるとスマートコミュニティということで、例えば復興市街地と既存の再生可能エネルギー源を例えばネットワーク化していくですとか、こういったメニューというのは初めてここで出てくることになるのではないのかなというように考えました。

それから、仙台市では環境観測というものを熱心にやっておられてデータを公開されていたわけですが、そういったものが全く沿岸地域では壊れてしまっているということもありますので、その位置づけを見直した上で復旧充実というものも欠かせないんじゃないか

と。これはちょっと後でもう1回出てきます。

それから、市域全体ということを考えたりですとか、先ほどの東部地域を農地として再生するのか、もしくは発電所にしてしまうのかなんていうところまで議論が進むんだとすれば、土地利用ですとか都市計画の見直しなんていうようなことが検討課題になってくるわけですし、もしそこまで議論が進むのであれば、ここにクリマアトラスと書いてありますけれども、地域。地域といっても仙台でも海岸地域と中心市街地、それから里山地域で気候の特性も大きく違いますので、そういったことですとか、先ほど風間委員からも言われましたけれども、地盤情報というものも踏まえて、こういうところはもう危険なんだからそれなりのところを考えたような建物をつくりましょうよというような推奨でもよろしいかと思うんですけれども、そういうようなことも考えなければいけないということです。

ここまで話を進めると、検討期間を5年ではなくて10年かなというふうに思いますし、10年ということになるとこの頭出した五つの項目の上から二つ目なんですけど、そもそも昨年度基本計画を各、全体でもそうですし、各部局でも見直ししていらっしゃるじゃないかと。エネルギー関係でいえば環境基本計画の方にかなり位置づけられているというところもありますので、もしかしたらその兼ね合いというか整合性、もしくは再検討して優先順位ですとか重点項目を洗い出すですとか、そんなこともあるのかなと。

その前提にあるのが一番上で、次の震災への備えということで、地震のこともそうですけれども、地球規模の気候変動に伴って異常気象ですとかが頻発してきていますので、そういったことも震災として備えなければいけない項目の一つなのかなということを考えるという視点です。

ということで、私の場合はこれは意見というところもありますけれども、どちらかというところを議論しなくてはいけないんじゃないかというようなことでまとめたというものです。

以上です。

○鎌田議長

はい、どうもありがとうございました。

今、委員の皆様の意見が表明ございましたので、両副議長さんからお願いします。

○牧原委員

今回、仙台市震災復興ビジョンというものをいただいて、その上でここで議論するというのですが、この会ではビジョンについて特に説明のないまま、今ここで議論しているわけですが、果たしてこのビジョンは何なのかということはやはり前提にしないと話が進まないのではないかということが言えるのではないかと思います。

どうやってこれがつくられたのか。例えば、復興まちづくり意見交換会という市民の方と意見交換をされているわけですがけれども、集団移転一つとっても反対という声は多いような部分もあるわけですがけれども、それにも関わらず集団移転が前提の計画ビジョンになっています。ここをどう我々は考えればいいのかということを含めて、ここまでのプロセスを説明していただかないと何も判断しようがない。そういったことが実は多いんじゃないかというふうに思うんです。

さらに、それから5年の計画になっていますが、私も5年、10年じゃないかという考え方がありましたけれども、復興ということだけを考えればやはり10年ぐらいないといけないと思います。しかし、スケジュールとしては5回会議を行うと、10年先まで計画を考えるのであれば、国の復興構想会議のように毎週のように会議を開かないといけないのではないかと思います。これからのあり方も含めてどういう方向でいくのかということは、一つ考えなければいけません。

それから、項目もそうでした、基本的にはやはり津波で被害をこうむった地域のまちづくりが中心のビジョンだと思うんですが、今後の会議の中で他の項目を膨らませるといふことか、それともここにある重点的に書かれていることがもう現在の市の対応としては限界であってそこに重点を置くのか、これは率直に市のお考えをお聞きした上で議論した方が私は、もし5回やるならば生産的ではないかというふうに思うわけでありまして。

そうして、市役所の中で議論されてきたということと、今一番問題であるやはり深刻な被災地の復旧という、この二つのやはり大きな特徴があるのはやむを得ないと思います。しかし、ここではもう少し外から見てどうかということをややはり考えなければいけません。ここにないことをどこまで入れられるかということをやちょっと議論しなければいけません。

ないことという、実は私ここに一番欠けているのは子供という視点ではないかと僕は思います。学生まではあるわけですが、子供がない。ここはいわゆる防災教育の問題とか、これをどう考えるかというのはやはりどこかこれは項目としてちょっと成り立たないんじゃないかというふうに思います。

ちなみに、学生と言っていますけれども、学都仙台と言われているわけですが、今回のこの震災で仙台市の復旧・復興次第では学都仙台の前提も私はかなり崩れるかもしれないと危惧しています。東北地方の学生であれば東北大学、東北地方全体が被災している部分もありますので東北大学に来ることに抵抗はさほどないと思いますけれども、東日本より別の地域から東北大学に来るといふのは実はかなり今まで以上に抵抗感を感じるでしょう。特に保護者はそうだと思うんです。では市はどの程度復旧・復興しているか、これをどのように外にアピールしていくかということをやきちっと言わないと、学都仙台といふことの前提が危なくなる可能性があります。すると、若者に頼るといふビジョンの構想も長期的にはかなり意味を失っていく可能性があると思うんです。

そういう意味では、やはり復旧・復興をどこまで外にしっかりと主張していくかということが必要だと思います。逆に外は見ていると思います。例えば、先日、関西広域連合に広域連携という研究調査テーマでヒアリングに行ったんですけど、関西広域連合は東日本大震災でいろいろ提案をしています。兵庫県知事が非常にイニシアチブを持ってやっているんだそうですけれども、例えばそういうことでもう他地域からもいろいろな提案が出されているけれども、それをどう受け止めていくのか。向こうの方の話を聞くと、反応は余りなくてとりあえず投げているという感じなんですということだったんですが、やはりこういったものをどういうふうに受け止めていくかということもあるだろう。

それから、先ほど辻委員がおっしゃった学会等、国際会議で外国人が恐らく相当注目しているのは、どれほど被害が大きかったということもさることながら、どれほど復旧・復

興しているかということを見たいという意識が非常に強いと思うんです。

そういう意味で、仙台で国際会議を開くということが恐らく今後、向こうのニーズもあるし増えてくる可能性があるわけで、そうだとするとやはりそういったものを積極的に受け入れ、その市のあり方を伝えていくということが必要なんだろうというふうに私は考えております。

そのほかにも経済の問題とか、いろいろあると思うんです。そういったことを今後どのように議論していくかということ、我々で議論するのも必要ですし、この会議は市の方でビジョンをつくられて、こちらに意見を求めるものであって、委員が答申をつくるというタイプの会議じゃないはずですから、そのあたりの市のお考えというものをやはりどこかの段階で聞きたいと思います。

以上です。

○鎌田議長

どうぞ。

○宮原委員

それでは、続けてお話しします。

私も3・11のときはこの仙台市内で被災をしたんですけれども、地震の直後よりもやはり数日たってからの方が大変恐怖感を感じたことがありました。それはやはり水とか電気とかガス、あと食べ物が手に入らないという。その食べ物が手に入らないことに関しては自分たちで頑張るしかないというところですか、そういうところが非常に恐怖感がありました。

なぜかという、仕事をしていると、例えば私も一人で暮らしているんですけれども、仕事をしていると食料の調達とかガソリンの調達ができないんです。食料の調達をするために並ぶと今度は仕事ができないとか、本当にこれが長く続いたときに仙台市内で生きていけるのかしらというようなちょっと恐怖感を感じたりしました。

そのときにやはりこれからの復興計画ないしは新しい仙台をつくっていくときに、今災害に強い都市をとという目標が一つ出ていますけれども、それはハード的な部分だけではなくて、やはり日常的生活の中で足腰の強さをしっかり確保していくべきだなと思います。

その一つのかけ声としては、もう仙台市全体が自給自足できる、いわゆる生存資源としての水や、それからエネルギーとか食べ物です。あとは情報なんですけれども、こういったものを自給自足していくという、そういった大きな目標を掲げながら、何かあったときに市民の人も自分自身も自給自足の生活をしながらやっていくと。

一つは、ライフスタイル全体を日常から変えていくような、なおかつそれが決して防災だけではなくて、何か起こらなくてもずっと生きていくために必要な生き方であるということをややはり仙台から発信していくというのが重要かと思います。

例えば、一般の家庭でしたら菜園を必ずつくっておくとか、それから、食料の備蓄についてはやはりある程度の基準で必ずお米とか水の備蓄をきちっとしておいて、数日は自分のところで煮炊きとか近所でバーベキューをやって楽しんで頑張っているというような、そういった不安を生活の中で徐々に解消できるようにしたり、そのためにはやはり仙台市内にある地域農業を大切にしていって、今、都市の中にある農家の方たちも大切にしな

がら、やはりいざというときに例えば漬物をもらうとか、漬物を漬けておいてもらってみんなで分けるとか、多分そういった中の生き方がすごく重要ではないかと思えます。

やはり公的な力というのはなかなか私たちの市民の生活の細部までは行き届かないし、やはり最後は私たちが頑張るところがあるんですけれども、その食べ物や水の確保の安心感を各自で持つことでもう少し個々に建設的な意見とか公にばかり頼らないような生き方ができるのではないかというふうに考えました。

それから、あと、そういった意味では東部地域に関しても今後農業に関するやはり施策は重点的にしていただきたいなと思えます。

あとは1点は、実は震災の前から再開発や区画整理のときにちょっとお話ししていたんですが、東部の地域でとても似合う例えば農業だとお米だけではなくて花なんですけれども、花き栽培、オランダの空港周辺の低地にたくさんの花きの産業が発達していますけれども、そういったものを前面に自分たちで移してくる。空港も近いのでフレッシュな花きを輸出するとか、そういう花を中心とした産業を育てていくということも新しいやり方としてはいいのかなと。塩に強い、塩害に強い植物もたくさんありますので、そういったことの花のニーズもこれから本当に高くなると思えます。慰霊祭とか、いろいろな形で使われますので、そういう小さなアイデアでもやれる方はあればと思いました。

それから最後に、ビジターズの面からちょっとお話しします。私は観光交流が専門ですけれども、仙台市では平成16年ぐらいから観光客だけではなくて、いろいろな目的を持って仙台市にやってきてくださる方をビジターズと位置づけて、そういった方たちをたくさん仙台に呼ぶいろいろな取り組みをしていらっしゃいます。

今回の震災のときにたくさんビジターズが仙台市内にいらっしゃったと思うんですけれども、仙台市はそういう方たちにどう優しくしたかとか、どう対応したのか、観光客の人どうやって逃げたんだろうというのがやはり非常に私としても大きな課題です。

これからコンベンションを誘致する、それから多くのビジターを仙台市に招くということに大変重要なことですが、一方でそういった方たちが被災されたときに、同時に市民の方と同じような形で安全が確保されるような、一方でビジターズに優しいまちをつくっていくという考え方もこれからちょっと検討していければなというふうに思えます。

以上です。

○鎌田議長

はい、どうもありがとうございました。

私も一言だけちょっと申し上げますと、復旧・復興に向けて一番大切だなと思っているのは、やはり経済活動が活発になることだと思います。経済が成長していけばそこに雇用がどんどん生まれてくる、雇用が生まれれば所得、収入も増える、それが消費につながるということでありまして、最終的には回り回って税収増加にもなると、こういう仕組みになっているわけでありまして。

そういう意味で、経済活動を活発化する中で大きな問題になって、今与党もいろいろ考えがあるようでありましてけれども、二重ローン問題という。例えば住宅ローンを借りていた人が津波で流されてもうなくなってしまったと。もう1回住むにはもう一度借りないのだめだと。そこまではいいんですけれども、今回特に問題なのは、この二重ローンが借り

ている側だけの問題じゃなくて、貸している金融機関にとっても大きな問題になっているという事実があるんです。

普通の場合は金融機関の方は余り被害がなくて処理できるのが普通なんですけれども、今回のように金融機関も被災者であるということになりますと簡単に債務を免除するというようなことが難しいんです。そういう意味では国の関与、全部とは言いませんけれども、ある一定の額の国の関与とか、そういうところが大きなテーマになりつつあって、なかなか債務は難しいと思うんでありますけれども、そういうところがないとうまく回っていかないなという感じを持っておりました。

それから、災害の履歴の話がちょっとございましたが、仙台市でも戦後と申しますか、余り発表にならないで災害の内蔵しているような部分があるんだと思うんです。一部おわかりになっている方もあるみたいですが、そういうようなところも隠さずにと申しますか、発表していく。あるいは、切り土、盛り土の関係なんかも、場合によっては地図なんかお持ちのところもあるようでありますので、そういうものもある程度公表して災害に備えるという意味では重要なのではないかなと、そんな感じを今持っているところであります。

今日は余り時間がなくなりましたが、奥山市長さん、コメントを今までの問題にいただければ大変助かります。

○市長

さまざまな視点から貴重なご意見ありがとうございました。私ども、今回のビジョンにつきましては当面事務局を中心に仙台市としてこういったようなことが必要ではないかというようなことを粗々に5月末に骨子のような形で提案させていただきまして、それに基づいて今市民の方のご意見、また今日は委員の先生方のご意見ということでやってきております。この間かなり時間的には限られた中でやってきておりますので、今ご指摘をいただきました本来的に5年なのか10年なのかとか、あとはまた、そのテーマ設定の切り口の問題であるとか、あと、それぞれの項目が現状ではやや項目だけが、見出しだけがあって一体中身がないような、何と言ったらいいんでしょうか、最中を食べてみたら何か皮だけであんこがなかったような気がするというか、そういうようなお感じのところもまだまだある形成途上のものだというふうに考えてございます。

これから今日いただいたご意見も踏まえまして、私ども、先ほど牧原副議長さんからもちょっとお話がありましたが、仙台市として今ぐらい出ているところが財政的にマックスでおなかいっぱいという感じになってしまうのか。それとももう少し膨らませていく余地があるのかということですが、私としてはこれはもう少し縦横膨らませていくために先生方のご意見をいただきたいと思っております。どちらかという今までのものは事務方で手堅くこれは何ぼ何でもやらなければいけないだろうというものを中心に固めて書いておりますので、例えば堀切川委員がおっしゃられたような市民の方の心を引っ張るような視点であるとか、あとはまた、辻委員からもお話がありましたが、むしろこれから来る高齢化社会を先取りするような形での今回の取り組みにそこに萌芽を見て施策のモデルみたいなものをつくっていくとか、そういった要素として膨らませ、もしくは焦点化、もしくはそのことをこれから仙台市全体にやっていくんだけれども最初とにかく復

興地域でやっていくとか、いろいろな取り組みが必要な課題があるというふうに考えているところでございます。

最大の問題は月に1回ずつお集まりいただいても5回ぐらいにしかない中の10月半ばという結構早い時期に来てしまうというところにあるかというふうに思っております。事務局もそういった意味では今日いただいたご意見をただ単に議事録にするというだけでなく、それを取り込むような形での資料のご提供であるとか、また、今日もそうでしたが、先生方には大変ご面倒をおかけするのですが、あらかじめペーパーでご意見をいただくようなことによって議論の進捗を先に進めていくようにするとか、そういった工夫をさせていただきながら取り組んでまいりたいと思っております。

あと、それからもう1点だけなんですけど、今日も何人かの先生からお話をいただきました。私どもで地域防災計画の検証ということでございます。これは極めて大事なことでというふうに思っております。例えば今回の津波被害の中で私どもが想定した津波被害区域をはるかに越えるところまで現実の津波が来たことでありますとか、その大きさも高さも全く我々の防災計画が考えていたものを超えていたことでありますとか、また、避難所の開設数も仙台市が考える指定避難所の数を大きく上回る自主的なさまざまな場所がもうほとんど自然発生的に避難所になったことでありますとか、さまざま地域防災計画で何の記載もなく、また記載されていたもののスケールを超えということが多々あったわけございまして、それらについては早急に見直していく必要があるというふうに考えてございます。

ただ、しかしながら、地域防災計画というのは今回改めて私もその由来をひもといてみた結果、これが法律にがんじがらめになっているということがわかりまして、国の中央防災計画に則り、県の地域防災計画に則り、それらを決して相反するような方向性を示さない中で地域自治体は防災計画を立てねばいけないとか、仙台市が地域防災計画を立てるときにはまず県にお伺いを立て、県にかくかくしかじかの理由で見直しますと進達をし、原案を出したら県からの認可をいただくために4カ月から6カ月かかるであろうとか、とんでもなく大層なものだということが改めてわかったのですが、法が定めるところはそれはそれとして、現実には市民の方がこの余震が続く中で求められている検証とか見直しというのはもっと市民生活に即したものであるというふうに考えますので、法律とつじつまを合わせる部分はそれはそういうふうに役人の能力としてさせていただくことにして、実際的に必要な見直しをしっかりとやっていくということについては記憶が熱いうちに取り組んでいきたいというふうに思っております。

以上でございます。

7. 閉会

○鎌田議長

どうも大変ありがとうございました。

それでは、予定された時間、11時でございましたので、本当は意見交換をもっとやりたいんですけれども、今回はこの辺で終了させていただきたいと思っております。短い時間でございましたので議論が尽くせなかった点については、ご意見を事務局の方にお出し

いただければ次回の会議までに皆様にご提示できるようにしたいと思います。よろしくお願いしたいと思ひます。

そのほか、事務局でそのほかござひませんか。

○事務局

ただいま議長あるいは市長からもござひましたけれども、各委員からのご意見を受けまして、こちら側の考え方を示さなければいけない部分等多々いただいております。限られた時間でありまして、なかなかお忙しい先生方にお集まりいただけないということもござひますので、今回と同様、また私どもの方からメールなりを送らせていただひいて、それに対してご意見をいただきながら、メールでお返しいたひきながらということで、キャッチボールをさせていただきながら次の会議を迎えたいと存じます。夏休み期間に入りまして先生方は大変お忙しいと思ひますけれども、ご協力をお願いいたします。

また、このやりとりの過程につきましても、次回公開資料として市民の皆様の方にもお示しさせていただきたいと思ひますので、その点ご了承をお願いいたします。

次回の日程でござひますが、先ほど申し上げました8月3日水曜日15時からこちらの市役所の方で行う予定でござひます。空調も直っている予定でござひますので、もう少し良好な環境でご議論いただけるのではないかとと思ひてござひます。

また、本日の資料、置いていっていただひいても結構でござひます。事務局の方で保管させていただきます。お持ち帰りの場合にはご自身での保管の方をよろしくお願ひいたします。

以上でござひます。

○鎌田議長

はい、どうもありがとうございます。

それでは、以上をもちまして本日の会議を終了といたします。次回は本日の意見も踏まえまして、さらに中間案に向けて議論を空調の効いた会場でいただきたいと思ひておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。今日はどうも大変ありがとうございます。

以上、議事録の内容につきまして、すべて相違ありません。

平成23年 8月 3日

議事録署名者

(議長)

鎌田 宏

(委員)

浅野 弘毅